

Asia Indicators

発表日: 2024年4月5日(金)

アジアで生活必需品を中心にインフレ再燃の動き(Asia Weekly(3/31~4/5))

～食料品やエネルギーなどを中心にインフレ圧力が強まる動きが確認されている～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
3/31(日)	(中国)3月製造業 PMI	50.8	49.9	49.1
	3月非製造業 PMI	53.0	--	51.4
4/1(月)	(中国)3月財新製造業 PMI	51.1	51.0	50.9
	(韓国)3月輸出(前年比)	+3.1%	+5.2%	+4.8%
	3月輸入(前年比)	▲12.3%	▲8.1%	▲13.1%
	(インドネシア)3月消費者物価(前年比)	+3.05%	+2.91%	+2.75%
4/2(火)	(韓国)3月消費者物価(前年比)	+3.1%	+3.1%	+3.1%
4/3(水)	(香港)2月小売売上高(前年比・数量ベース)	+0.5%	--	▲1.2%
4/5(金)	(タイ)3月消費者物価(前年比)	▲0.47%	▲0.40%	▲0.77%
	(オーストラリア)2月輸出(前月比・季調済)	▲2.2%	--	+1.5%
	2月輸入(前月比・季調済)	+4.8%	--	+1.4%
	(フィリピン)3月消費者物価(前年比)	+3.7%	+3.8%	+3.4%
	(シンガポール)2月小売売上高(前年比)	+8.4%	--	+1.6%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

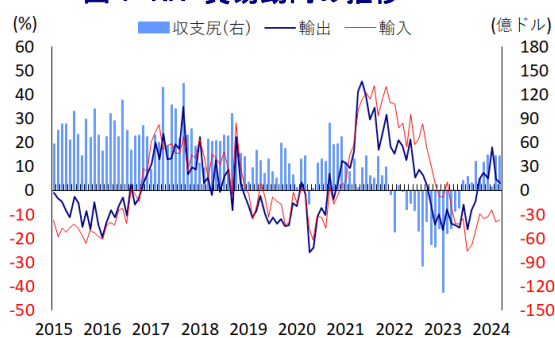
【韓国】～半導体関連の輸出は堅調も、中国向けや欧州向け、日本向けなどで輸出が下振れする展開が続く～

1日に発表された3月の輸出額は前年同月比+3.1%となり、前月(同+4.8%)から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている様子がうかがえる。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、コンピュータなど電気機械関連の輸出は好調な推移をみせているほか、通信機器関連の輸出にも底堅さがうかがえるものの、自動車や船舶など輸送用機械関連の輸出が勢いを欠く推移をみせていることが輸出全体の重石となっている。国・地域別では、米国向けやASEANなどアジア新興国向けに堅調さがうかがえるものの、最大の輸出相手である中国向けのほか、欧州向けや日本向けなどが軒並み弱含んでいることが輸出を下押ししている。一方の輸入額は前年同月比▲12.3%と13ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月(同▲13.1%)からマイナス幅は縮小している。ただし、前月比は2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの動きが続いている。輸出が頭打ちの動きを強めていることを反映して素材や部材などの輸入に下押し圧力が掛かっているほか、消費財関連の輸入も弱含むなど全般的に輸入が下振れしている。結

果、貿易収支は+42.79億ドルと前月（+42.90億ドル）からわずかに黒字幅が縮小している。

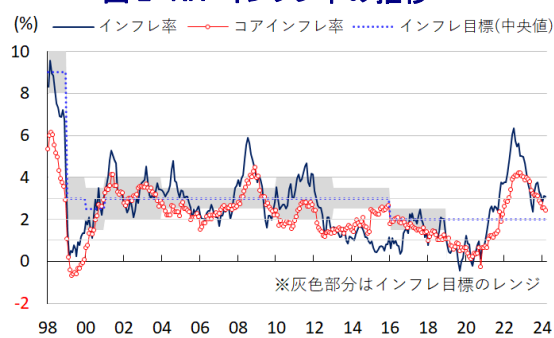
2日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+3.1%となり、前月（同+3.1%）と同じ伸びとなるも中銀目標（2%）を上回る推移が続いている。ただし、前月比は+0.15%と前月（同+0.55%）から上昇ペースは鈍化しており、前月に大幅に上昇して穀物や生鮮品をはじめとする食料品価格の上昇ペースが鈍化している一方、昨年末以降の国際原油価格が底入れの動きを強めていることを反映してエネルギー価格は上昇傾向を強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力がくすぶる状況は続いている。なお、食料品やエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.4%と前月（同+2.5%）からわずかに伸びが鈍化しており、一昨年末以降における頭打ちの動きが続いている。前月比も+0.07%と前月（同+0.30%）から上昇ペースは鈍化しており、エネルギー価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるも関連サービス物価に下押し圧力が掛かっていることを反映して輸送コストは下振れしている上、金融市場における通貨ウォン安による輸入インフレ懸念にも拘らず、幅広く財価格は落ち着いた推移をみせているほか、サービス物価にも下押し圧力が掛かるなど、生活必需品以外では物価上昇圧力が後退している様子が見えてくる。

図1 KR 貿易動向の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図2 KR インフレ率の推移

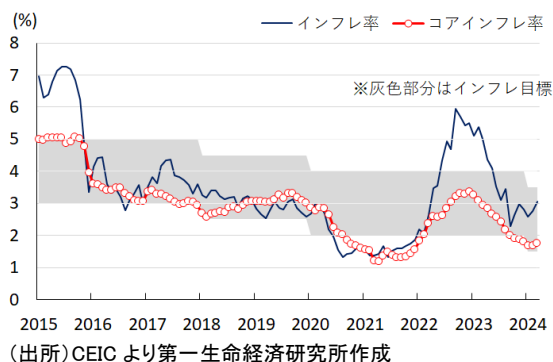


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

【インドネシア】～生活必需品を中心にインフレ圧力が強まるなか、頭打ちが続いたインフレに底打ちの兆し～

1日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+3.05%となり、前月（同+2.75%）から加速して7ヶ月ぶりに3%を上回る伸びとなっているものの、中銀目標（2.5±1.0%）の範囲内で推移する展開が続いている。前月比も+0.52%と前月（同+0.37%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の下落の動きに一服感が出ていることに加え、生鮮品や穀物などをはじめとする食料品価格に上昇圧力が掛かる動きがみられるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.77%と前月（同+1.68%）から伸びが加速しており、昨年以降頭打ちの動きを強めてきた流れに変化の兆しが出ている。前月比も+0.23%と前月（同+0.14%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の下落一服を受けて輸送コストに押し上げ圧力が掛かるとともに、金融市場における通貨ルピア安を受けた輸入インフレを反映して幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、サービス物価にも押し上げ圧力が掛かるなど全般的にインフレ圧力が強まっていることが影響している。

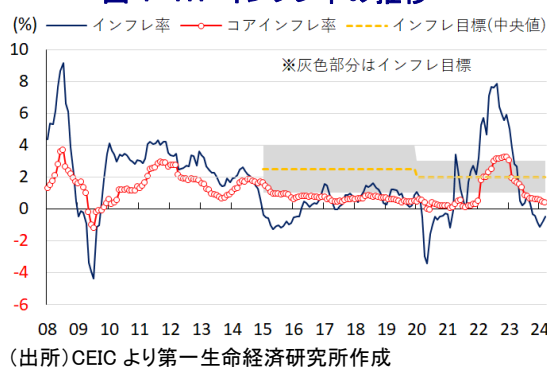
図3 ID インフレ率の推移



[タイ]～インフレ率は6ヶ月連続のマイナスも、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる動きがうかがえる～

5日に発表された3月の消費者物価は前年同月比▲0.47%と6ヶ月連続のマイナスで推移しているものの、前月（同▲0.77%）からマイナス幅は縮小している。前月比は+0.03%と3ヶ月連続で上昇するも前月（同+0.22%）から上昇ペースは鈍化しており、昨年末以降の国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格は上昇傾向を強めているものの、生鮮品を中心とする食料品価格は下落が続くなど生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.37%と前月（同+0.43%）から伸びが一段と鈍化しており、中銀目標（ $2 \pm 1\%$ ）の下限を下回る推移が続いている。前月比も▲0.01%と前月（同+0.02%）から6ヶ月ぶりの下落に転じており、エネルギー価格の上昇を反映して輸送コストが押し上げられているほか、金融市場における通貨バツ安に伴う輸入インフレ圧力が強まる動きを反映して財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられる一方、医療関連を中心とするサービス物価に下押し圧力が掛かっていることが物価上昇圧力を後退させている。

図4 TH インフレ率の推移

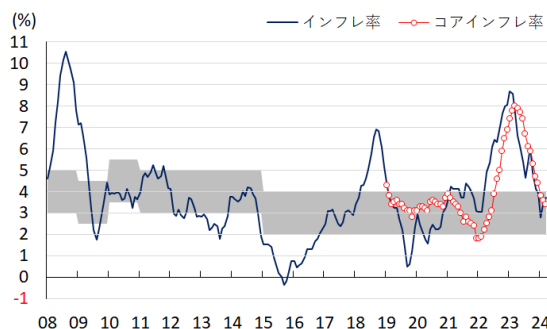


[フィリピン]～生活必需品を巡る物価の動きはまちまちだが、全体的にインフレ圧力が強まる兆しはくすぶる～

5日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+3.7%となり、前月（同+3.4%）から加速しているものの、4ヶ月連続で中銀目標（ $2 \sim 4\%$ ）の範囲内で推移している。ただし、前月比は+0.08%と前月（同+0.56%）から上昇ペースは鈍化しており、昨年末以降の国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格の上昇が続いている一方、穀物などで物価上昇の動きは続くも生鮮品を中心に物価上昇の動きに一服感が出ており、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。食料品とエ

エネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.4%と前月（同+3.6%）から鈍化しており、3ヶ月連続で中銀目標の域内で推移している。前月比は+0.24%と前月（同+0.32%）からペースは鈍化するも上昇が続いており、エネルギー価格の上昇を反映して輸送コストが押し上げられているほか、金融市場におけるペソ安を受けた輸入インフレ圧力の高まりを受けて幅広く財価格に上昇圧力がくすぶるとともに、経済活動の正常化を受けてサービス物価にも押し上げ圧力が掛かる展開が続いている。

図5 PH インフレ率の推移

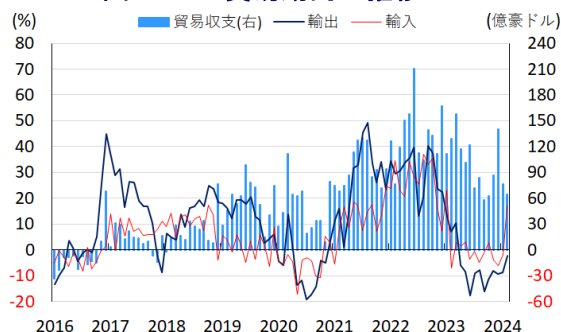


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[オーストラリア]～輸出は一進一退の動きをみせるも底堅く推移、輸入は底入れの動きを強めている模様～

5日に発表された2月の輸出額（季調済）は前月比▲2.2%となり、前月（同+1.5%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けが下振れしているほか、日本向けも頭打ちの動きを強めているものの、ASEANなどアジア新興国向けは底堅く推移しているほか、米国やEUなど先進国向けの堅調さも輸出全体を下支えしている。財別でも、原油や天然ガスなどエネルギー資源関連や鉱物資源関連の輸出が下振れしているものの、食肉や果物、乳製品など食料品関連のほか、木製品などの輸出の底堅さが輸出全体を下支えしている。一方の輸入額は前月比+4.8%と前月（同+1.4%）から3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている。財別では、機械製品関連のほか、鉱物資源関連や化学製品関連など幅広い分野で輸入が拡大する動きが確認されている。結果、貿易収支は+64.68億豪ドルと前月（+75.95億豪ドル）から黒字幅が縮小している。

図6 AU 貿易動向の推移

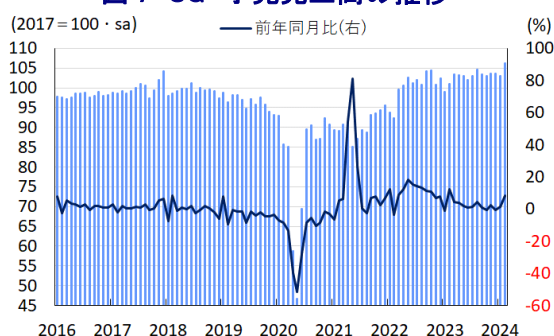


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

【シンガポール】～自動車や家電製品など耐久消費財のほか、高額品や余暇消費などで需要の堅調さを確認～

5日に発表された2月の小売売上高は前年同月比+8.4%となり、前月（同+1.6%）から伸びが加速している。前月比も+3.03%と前月（同▲0.45%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている様子がうかがえる。同国においては月ごとの自動車販売が上下双方に大きく振れるとともに、小売売上全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比+12.48%と前月（同▲8.56%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じていることが影響している。なお、自動車を除いたベースでも前月比+1.76%と前月（同+0.74%）から2ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きが進んでいる。食料品など生活必需品に対する需要が前月に大きく上振れした反動で下押し圧力が掛かる動きがみられるものの、宝飾品など高額品や余暇消費のほか、電気機械関連など耐久消費財に対する需要に軒並み底打ちする動きが確認されるなど、雇用の底堅さを追い風にした需要の堅調さがうかがえる。

図7 SG 小売売上高の推移

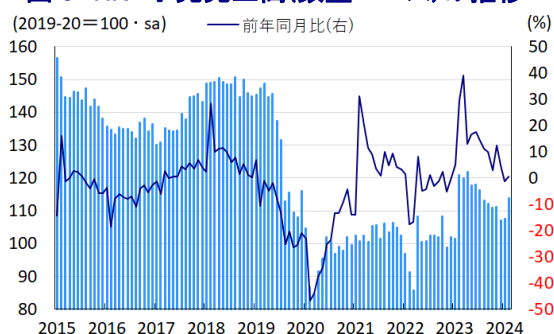


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

【香港】～高額品や耐久消費財に対する需要は弱いものの、生活必需品を中心に需要は底打ちの動きを強める～

2日に発表された2月の小売売上高（数量ベース）は前年同月比+0.5%となり、前月（同▲1.2%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+5.95%と前月（同+0.47%）から2ヶ月連続で拡大するとともに、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている様子がうかがえる。財別では、宝飾品など的高額品のほか、家電製品や電気機械関連をはじめとする耐久消費財に対する需要は弱含む動きをみせる一方、衣類をはじめとする日用品関連のほか、食料品など生活必需品に対する需要の堅調さが需要全体を押し上げる動きが続いている。

図8 HK 小売売上高(数量ベース)の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。